

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立緑小学校
校長名	浮津 あゆみ

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・昨年度目標に挙げた「各教科・各観点を上回る」、「活用問題で目標値を 5 ポイント以上上回る」ことは達成できた。また、2 観点（4 年理科知識・技能及び英語思考・判断・表現）を除き全て区平均を超えることができた。 ・全学年を通じて基礎的な知識・技能の正答率が高く、特に低学年では 90 ポイント以上である。 ・5 年、6 年の全体平均点が上昇した。特に 5・6 年の理科に改善点がみられた。	・「思考・判断・表現」は 6 年英語を除いて目標値、区平均を超えているが、「知識・技能」に比べると相対的に低い。 ・4 年生以降で活用問題の正答率が低くなる傾向があり、国語では記述、算数では理由説明、社会科では資料の読み取り、理科では実験結果からの考察に課題がみられる。 ・読み取った複数の情報を関連付けて理由を説明する問題に課題がみられる。 ・理科では、実験条件、結果、考察をつなげて説明する力をつけていく必要がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・昨年度 1 月と比較し、多くの項目で上昇傾向がみられた。特に、学級の規範意識、対話・話し合い、生活習慣、学習意欲、先生の支えの項目が上昇した。学級内のルール意識、話し合い活動、学級集団としてのまとまりが改善している。 ・特に 4 年生は、「先生の支え」「学習意欲」「学級の規範意識」が大きく上昇し、安心・安定した学級状態を作っている。	・2 年生は、「成功体験と自信」「先生、友達の支え」3 年生は「学級の絆」「友達の支え」に課題があり、安心できる人間関係作りを丁寧に進めていく。 ・5 年生は「社会参画」「発信力」「学級の絆」が相対的に低い。高学年としての役割を通して「自分たちが学校をよくしている」という実感を高めていく。 ・学校全体で、対話・話し合いは好調であるが、は「発信力」は相対的に低い。主体的な発信を高めることが学力の課題となった説明する力の向上にもつながっていくと考えられる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・家庭・地域の協力は大変手厚い。整えられた環境の中で、児童一人一人が自ら考え、友達と協働しながら学びを深めていけるよう、ICT を活用した意識的な学びの場の設定を継続して行っていく。 ・児童の「もっと知りたい」「やってみたい」「できるようにになりたい」といった思いを大切にしたい授業づくりを進めたことで、見通しをもって主体的に学習に取り組む児童が増えてきている。	・授業では興味関心を湧き起こすための導入に力を入れているため、適用問題や発展的問題を解く時間が少ない。「わかる」から、確実に「できる」授業の取組を行う。 ・授業中の「ペア学習」が、児童が自分の考えに自信をもつことをねらいとした活用に残っている。ペアで話し合ったことをもとにして、学級全体への意見交流へと広げ、思考を深化させる活用方法に変換していくことが望まれる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 全校統一した朝学習の取組

①「デジタル」から「紙」へ。

- ・問題ベース、YOMUYOMU シートやドリルなど、「紙」に手で書いて解く学習スタイルへ変える。

②学習内容の統一化

- ・火曜日、水曜日、木曜日、金曜日 8 時 30 分～40 分の 10 分間、集中して朝学習に取り組ませる。学年ごとに学習内容を決め、基礎基本の充実、既習事項の定着を図ることをねらいとして行う。

③生活指導の充実

- ・8 時 30 分には着席し、朝学習に取り組むことができるように習慣化する指導を行う。

(2) 課題解決に向けた授業改善の取組

①「根拠をもとに説明する力」を育てる。

- ・発達段階に応じた「話型」を全校で揃え、説明する活動を意識的に取り入れる。「ペア学習」においても「話型」を用いて話をさせ、一方通行にならない話し合いをさせていく。

②「読む・見る」から「比べる・つなげる」学習へ

- ・国語では本文と資料、自分の考えをつなげる。
- ・算数では、図・式・表・グラフ・言葉をつなげる学びを多く取り入れる。
- ・社会科では、複数資料を比較して社会的事象を説明させる。

- ・理科では、条件・結果・考察をつなげて考える。

③効果的な板書とノート指導

- ・記述指導を日常化する。「根拠→自分の考えを一文で書く→理由を結びつける」
- ・適切なノート指導のために、板書を工夫する。

④ ICT の効果的な活用

- ・I C Tは意見交流、資料提示など目的を明確にして効果的に活用する。

⑤「わかる」から「できる」の授業へ

- ・適用問題や発展的問題を授業時間内に取り入れ、「できる」自信を味わわせる。
- ・算数少人数指導では学級数プラス 2 学級体制で「できる」算数をめざす。

(3) 発信力を高め、安心して話し合える学校・学級づくり

①正解をいう発表から、考えを出す発表へ

- ・「わからないと思ったこと」を遠慮なく発信できる学級の雰囲気、教師と児童で作り上げる。
- ・誰かの「わからない」が、みんなの「わかる」に変わる大切な考えであることを実感させる。

②友達の考えを受け入れる

- ・「ペア学習で」や全体交流では、互いの考えを受け止めてもらえる安心感を体験させるために、相手の意見をよく聞き反応する態度の育成を図る。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・各教科、各観点で目標値を上回る。
- ・各教科の活用問題で、目標値を 5 ポイント以上、上回る。
- ・各教科 A・B 層を 7 5 %以上、C 層児童を 1 5 %以上にする。